

感染禍という 自然実験下で見いだせるもの

三浦麻子
(大阪大学大学院人間科学研究科)

予兆学シンポジウムYOCHOU2020

Lifestyle Genomics

Editorial

DOWNLOAD FULLTEXT PDF

OPEN ACCESS

The Covid-19 Global Pandemic: A Natural Experiment in the Making

Mutch D.M.^a

Author affiliations

Corresponding Author

Lifestyle Genomics 2020;13:135–137

<https://doi.org/10.1159/000510217>
<https://www.karger.com/Article/FullText/510217>

新型コロナウイルスの感染が広がる全米の学校は、いまや“自然実験”の場になりつつある

新型コロナウイルスの感染拡大が深刻な米国では、9月に新学期を迎えた学校での対策が課題になっている。一部の地域では登校での対面授業が決まっていることから、研究者たちはウイルスの感染経路を理解して対策をとる上で必要な“自然実験”の機会になると考えている。

NATURE 2020.09.03 THU 08:00

TEXT BY ERIC NILER

TRANSLATION BY MITSUKO SAEKI

WIRED(US)

<https://wired.jp/2020/09/03/a-huge-covid-19-natural-experiment-is-underway-in-classrooms/>

Circulation

AHA Journals

Journal Information

All Issues

Subjects

Features

Home > Circulation > Vol. 142, No. 1 > The COVID-19 Pandemic

FULL ACCESS

ARTICLE COMMENTARY

The COVID-19 Pandemic A Global Natural Experiment

PDF/EPUB

Blake Thomson

Originally published 23 Apr 2020 | <https://doi.org/10.1161/CIRCULATIONAHA.120.047538> | Circulation. 2020;142:14–16

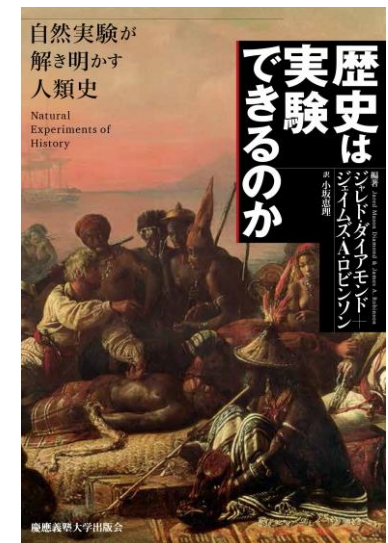
Tools Share

<https://www.ahajournals.org/doi/10.1161/CIRCULATIONAHA.120.047538>

自然実験 Natural experiment

- 研究者が意図して参加者を集めたり, 条件を操作したりするのではなく, 実社会に自然に生じた現象の原因と結果を観察することによって因果関係を検証したり, ある条件の有無が結果に及ぼす影響を比較したりする研究法

- ① 時系列比較
- ② 国際比較
- ③ 大規模国際比較



時系列比較

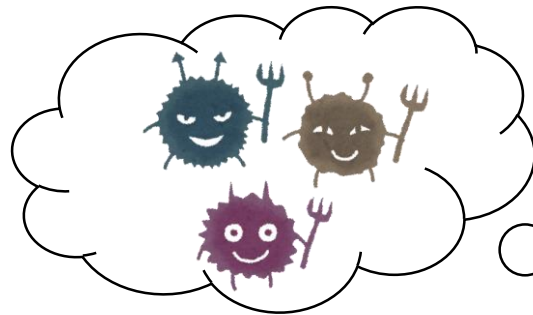
[Yamagata, Teraguchi, Miura \(2020\)](#)

- 日本人を対象とするパネル調査(同じ対象者に継続的協力を求める)による検討
- RQ: 感染を忌避する心理システムと外集団排斥の関連に, 感染状況の変化はどのような影響をもたらすのか

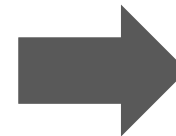
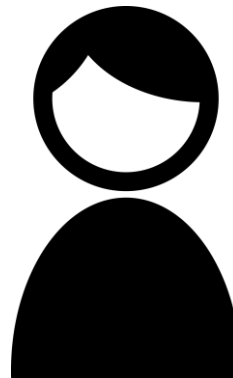
感染忌避の心理的システム

行動免疫システム

(Schaller & Park, 2011)



手がかり
e.g. 咳, 発疹



近づかない

||

侵入を未然に防ぐ

||

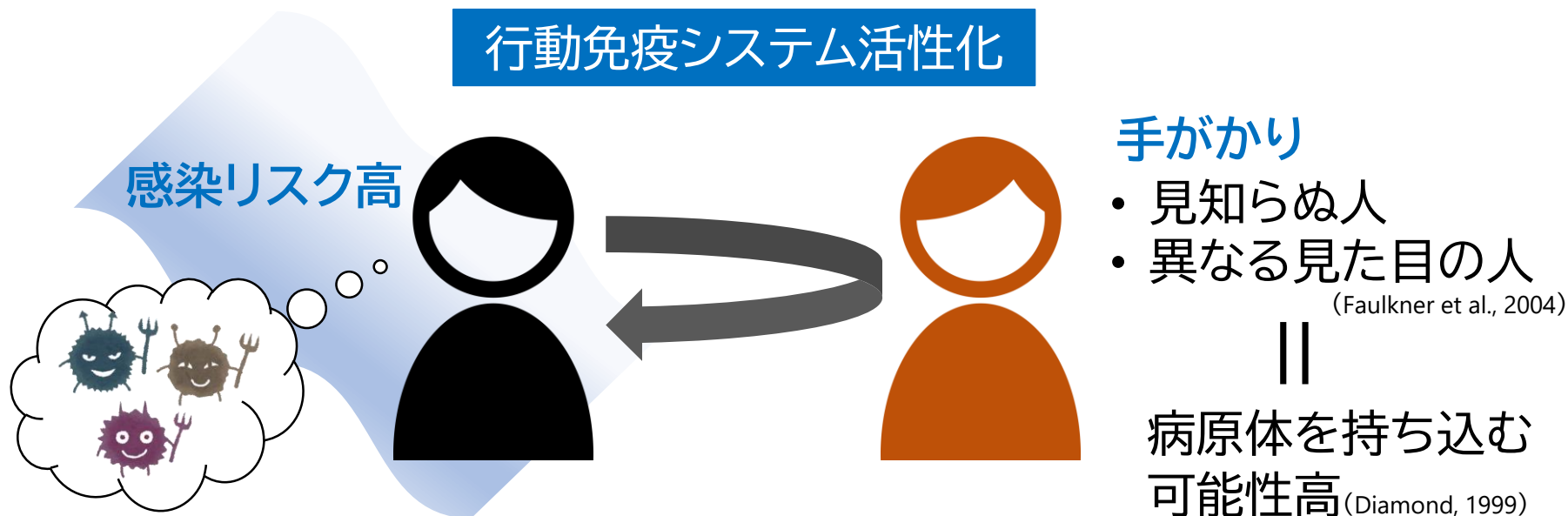
「推論」なのでエラーが生じる

コスト低

より深刻なのは「感染源を見逃す」エラー(偽陰性)だが,
起こりやすいのは「感染源と誤認する」エラー(偽陽性)

偽陽性の弊害

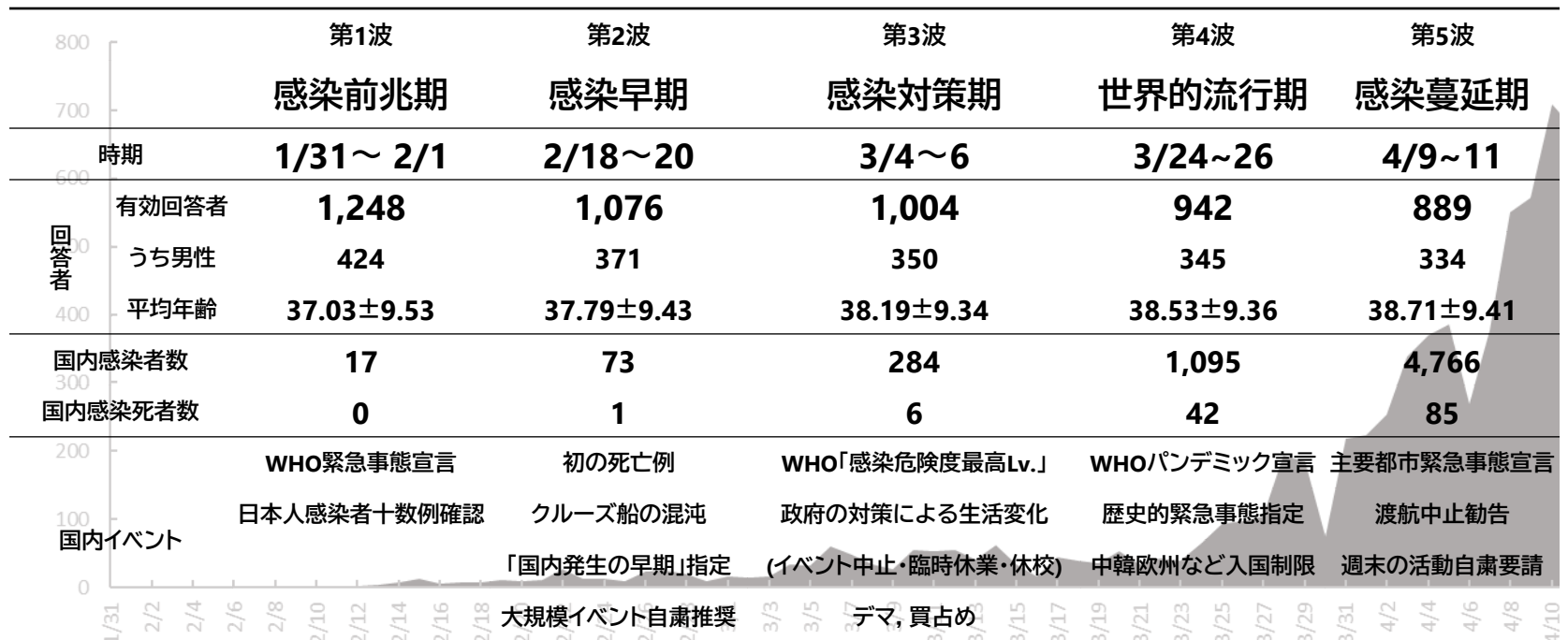
行動免疫システム活性化



状況変化に伴って、感染予防行動、
中国人あるいは外国人全体への排斥的態度が強まる？

感染忌避傾向/外国人との接触頻度の個人差による調整効果も検討

調査概要



昨日から第9波実施中

感染拡大の影響は...

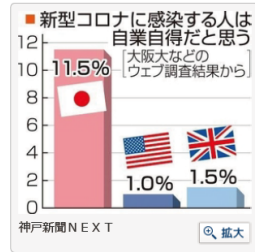
- 感染対策期(3月上旬)は総じて排斥的な心理状態
 - 外国人・中国人に対する受入態度は低い
 - なじみのない人に対するネガティブな印象は高い
 - 感染予防行動は1月下旬の前兆期よりも少ない
- 世界的流行期(3月下旬)は総じて受容的な心理状態
 - 外国人・中国人に対する受入態度は高い
 - なじみのない人に対するポジティブな印象は高い
 - 感染予防行動は3月上旬と同程度
- 感染蔓延期(4月上旬)にまた変動
 - COVID-19への脅威認知・感染予防行動数は最大, 排斥的態度は再び上昇
- **その後も継続してデータをとっているが, 現時点ではまだ「よくわからない」というのが正直なところ**

国際比較

Hiraishi et al. (2020) Preregistration [1](#) / [2](#)

- 3月下旬～4月下旬に日本・アメリカ・イギリス・イタリア・中国でWeb調査を実施
- RQ: 感染禍で嫌悪感受性は平時より高まるのか, 嫌悪感受性は外集団排斥や内集団称賛, 社会規範への従順さなど社会的変数とどのように関連するのか

中傷につながる？「感染は自業自得」欧米に比べ日本突出 11.5%、米英では1%台



新型コロナウイルスの流行を巡り、「感染は本人のせい」と捉える傾向が、欧米に比べ日本は突出して高いことが大阪などの調査で分かった。従来の研究でも、日本人は欧米人と比較して「不運な目に遭うのは自業自得」と考えやすいとされており、新型コロナ感染者を責めたり、謝罪を求めたりする不寛容さとの関連も考えられる。

慶応大、大阪大、広島修道大などの心理学者が3月下旬に日本、米国、英国、イタリアでウェブ調査を実施した。

①感染した人がいたら本人のせいだと思う②感染する人は自業自得だと思うという二つの質問に、まったく思わないあまり思わないどちらかといえば思わないマドちらかといえば思うマヤや思うマ非常に思うーの選択肢を設定。各国で約400人から回答を得た。

質問①で、「どちらかといえばー」から「非常にー」までを含めた「思う」は米で計4・8%、英で計3・5%だったが、日本は計11・5%で本人に原因を求める傾向が強く、伊も同様だった。質問②では、「思う」は他国が計1～2%台だったが、日本は計11・5%と際立って高かった。

また、質問②に対して、米は72・5%、英は78・6%が「まったく思わない」と強く否定したが、日本では29・3%にとどまった。

職業や行動などによるリスクの程度の差こそあれ、新型コロナは誰でも感染する可能性がある。にもかかわらず、感染者への嫌がらせや差別的な言動が日本各地で起き、ネット上では激しい中傷も見受けられる。

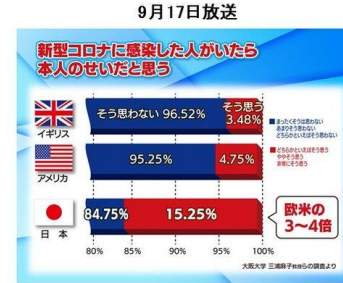
調査メンバーの三浦麻子・大阪大教授（社会心理学）は「文化や制度の違いも含め、各国の差の要因を分析したい。ただ、一部の人の極端な意見が行動を伴うことで、実際以上に目立っている可能性も考慮すべき」としている。（竹内 卓）

<https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/202005/0013348849.shtml>

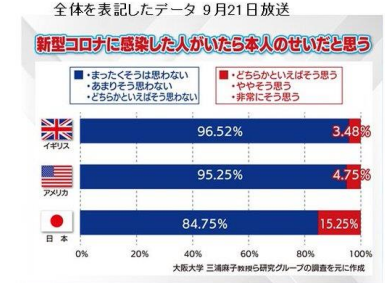
テレポートプラスよりご報告とお詫び



9月17日の空ネットのコーナーで白河市の「思いやり条例」についてお伝えした際に、表現がで改めてお伝えします。
 今回の放送では、大阪大学の三浦教授などが「新型コロナに感染した人がいたら本人のせいだと思うかどうか」日本を含む5カ国の市民に聞いた結果をご紹介します。
 ただ、放送したグラフは0%ではなく80%から始まっていて、日本では「思う」と回答した人が大半を占めているように見える表現となっていました。
 割合を示すグラフは省略せずに全体を表示する必要があります。日本で「新型コロナへの感染は本人のせいだと思う」と回答した人は15.25%。全体で見ると少数派ですが他国と比較すると多い結果で、これを踏まえて「誰でも新型コロナに感染する可能性がある」と。そして「感染した人が悪い訳では無い」とお伝えしようとしていました。
 今回の放送に関しては、調査を行った大阪大学の三浦教授からグラフは誤解を招くのご指摘を頂いています。ご迷惑をおかけしました。視聴者の皆さんにも誤った印象を持たせてしまったこと改めてお詫びいたします。



9月21日福島テレビテレポートプラス



https://twitter.com/ftv_tenki/status/1308001585885097985

何か「刺さる」ものがあるデータだったらしい

「感染は自業自得」「東京人はさっさと帰れ」日本人はどうしてコロナで他人を攻撃するのか？

文春「文春オンライン」特集班

2020/08/14

genre: ニュース, 社会

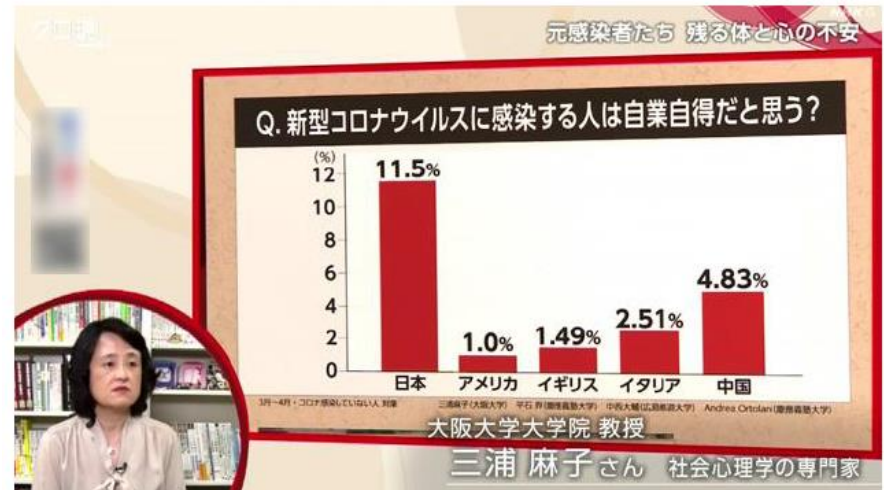
23

〈さっさと帰ってください!! 皆の迷惑になります〉

お盆の帰省シーズンを前に、大都市のみならず地方都市でも新型コロナウイルスの感染が拡大。それにとまって地方では、感染者に対する強烈なバッシングだけでなく、東京から青森に帰省した男性の家に冒頭で紹介したような文面の手紙を投げ込む事態まで起きている。どうして日本では、こうしたコロナをめぐるバッシングが横行するのか。

社会心理学者で、各国の新型コロナに対する意識を調査した、大阪大学人間科学研究科教授の三浦麻子に聞いた。

<https://bunshun.jp/articles/-/39658>



予兆学シンポジウムYOCHOU2020

<https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4433/>

「感染は自業自得」国際比較

内在的 公正推論	新型コロナウイルスに感染した人がいたとしたら、それは本人のせいだと思う
	If anyone had been infected with the Coronavirus (COVID-19), I think it was their fault.
	新型コロナウイルスに感染する人は、自業自得だと思う
	I think anyone who gets infected with the Coronavirus (COVID-19) got what they deserved.

「自業自得」設問・回答の度数分布と得点化(1-6)した平均値(2020年3～4月調査)

国	回答者数	まったく1	あまり2	どちらかといえ ば3	どちらかといえ ば4	やや5	非常に6	平均
		そ う 思 わ な い			そ う 思 う			
日本	400	29.3%	36.5%	22.8%	8.0%	2.5%	1.0%	2.21
アメリカ	400	72.5%	22.5%	4.0%	0.8%	0.3%	0.0%	1.34
イギリス	402	78.6%	17.7%	2.2%	1.0%	0.3%	0.3%	1.27
イタリア	479	75.6%	17.5%	4.4%	1.5%	0.4%	0.6%	1.36
中国	513	61.2%	23.8%	10.2%	4.3%	0.6%	0.0%	1.59

「自業自得」設問・回答の度数分布と得点化(1-6)した平均値(2020年8月調査)

国	回答者数	まったく1	あまり2	どちらかといえ ば3	どちらかといえ ば4	やや5	非常に6	平均
		そ う 思 わ な い			そ う 思 う			
日本	1207	24.3%	30.2%	28.4%	11.5%	3.9%	1.8%	2.46
アメリカ	999	52.5%	32.1%	10.5%	2.9%	1.7%	0.3%	1.70
イギリス	1246	69.3%	23.0%	6.3%	1.0%	0.2%	0.2%	1.40

大規模国際比較

[Van Bavel et al. \(2020\)](#)

ICSMP COVID-19

International Collaboration on Social & Moral Psychology: COVID19

<https://icsmp-covid19.netlify.app/>



COVIDiSTRESS
Global Survey

<https://osf.io/z39us/>

大規模国際比較

オープンサイエンス

マルチラボ

<https://icsmp-covid19.netlify.app/>

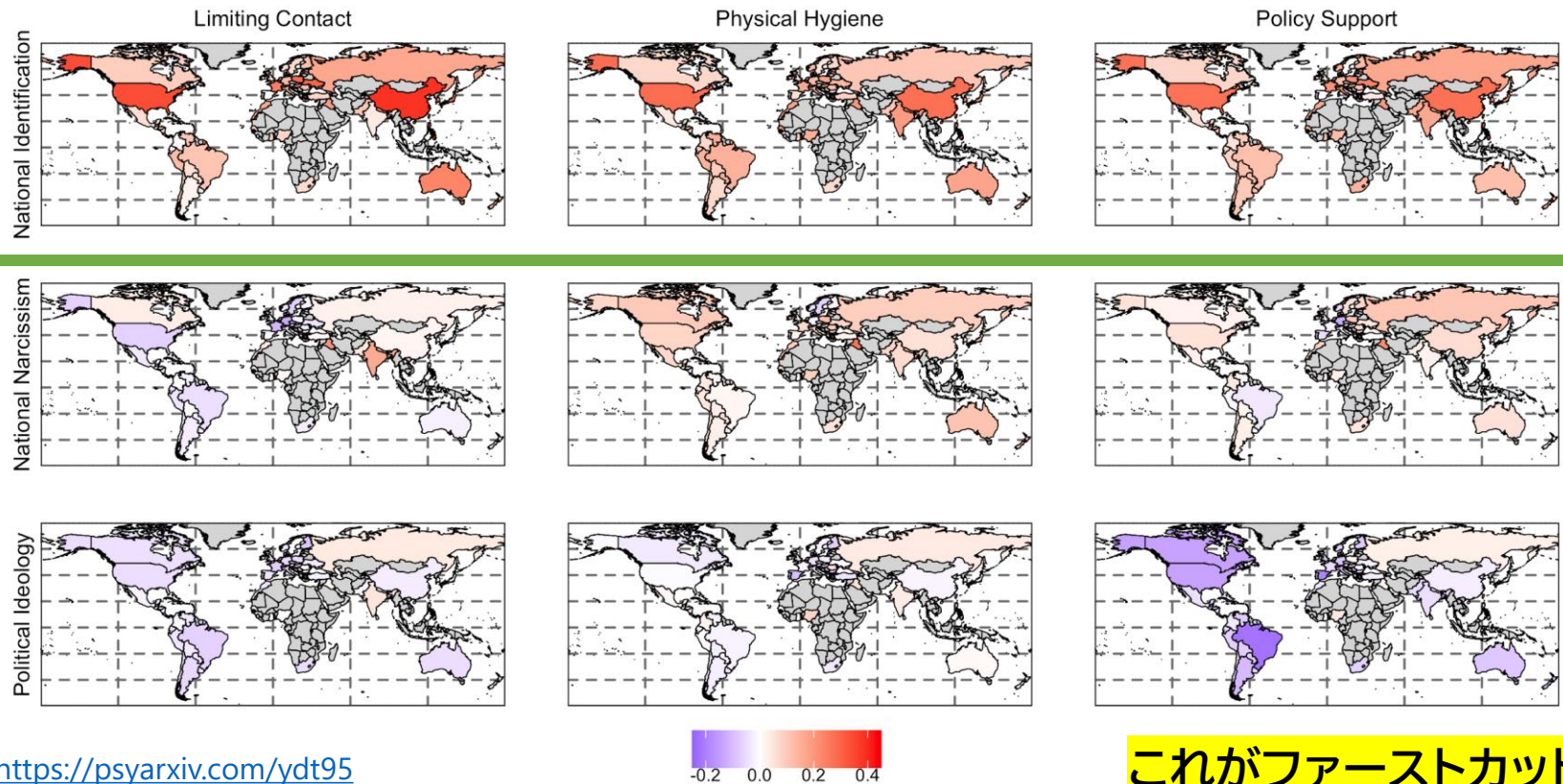
ICSMP COVID-19

International Collaboration on Social & Moral Psychology: COVID19

4月下旬に世界67カ国46,450名を対象にWeb調査を実施

日本チーム: Yusaku Horiuchi, Charles Crabtree, Yohsuke Ohtsubo, Asako Miura, Yuki Yamada

ナショナル・アイデンティティと 公衆衛生意識



<https://psyarxiv.com/ydt95>

これがファーストカット
よってたかったの
二次分析はこれから

感染禍の心理学

- とるものもとりにあえず, 世界中の心理学者がデータをとっている
 - 「同じ実験状況下」で, 集団(文化)レベルー個人レベルの要因の効果を検証できる希有な状況
- しかし, まだ「実験」は始まったばかり
 - 何らかの「予兆」は, 感じ取れるような気がしないでもない
 - 物理的に「適切な(これまで以上の)」距離をとることが重視される社会で生じる社会心理的变化は何だろうか